

それでは、届け出順に発言を許します。5番、瀧上清君。

○議員（5番 瀧上 清君） おはようございます。市長、お疲れでしょう。きょうが、一般質問の最終日です。市長の答弁聞いてますと、非常にやる気は見えるんですが、普段のあの元気が壇上で見えません。普段どおり明るく元気にやってください。

早速、通告しておりました対馬市の重要な政策課題の一つである国際交流の中の、特に韓国観光客受け入れについて市長にお尋ねします。

大きく1番目です。観光客誘致にかかる受け入れ体制の整備策についてお尋ねします。

御承知のように、平成11年、釜山・巖原間に定期航路が開設されてから17年が経過しました。そして、昨年、対馬にお迎えした観光客数は2万1,678人を数えました。（発言する者あり）21万。そうですか。（笑声）まあ晩期高齢者ですから許してください。そして、今、順調に年間およそ26万人を数えるぐらいのペースで、増加の一途をたどっておる現状でございます。

加えまして、対馬市のホテル誘致等によりまして、大型ホテルの建築がどんどん進められておる現状でありまして、およそ900人前後の収容人員の増加が見込まれるような状況になってきました。

さらに、旅客船は、大亜高速海運が4,000トン級、定員826人の高速船を就航させるべく、現在ドック入りして、内装の化粧直しが行われているそうです。さらに、未来高速海運においても、定員440人の高速船の就航に向けて準備がなされているようです。

このように、民間活力は、対馬の韓国からの観光客の状況、展望を素早く察知されまして、着々と投資が行われております。

この現状からしまして、対馬を訪れる韓国観光客は来年度以降急増し、年間40万人の時代はすぐそこに来てると言っても過言ではないと考えます。

しかし、しかしですよ。市長、大変なことになりそうなのが想定されるんです。それは、民間活力の素早い対応に対しまして、行政の対応する観光客受け入れ施設の整備状況はと申しますと、決して万全とは言えません。数多くの課題がありますが、早急に対処しなければならない課題だけに絞って、今回は、特にその具体策についてお尋ねをいたします。

その基準となる観光客目標数値は、しばし40万人とされておりますが、私はちょっといかがなものかなと前回の質問でも異論を唱えておりましたが、今回は、基礎数値として40万と仮定した場合の1日当たりの観光客の受け入れ数を計算しますと、まあ単純計算しますと、40万人を日曜、あるいは、しげ等を考えますと、300日が就航日数と仮定しますと、およそ1,332人になります。これ単純計算ですよ。それに、その日によって、土曜は多かったりしますんで、増減がありますので、2割増減があると仮定しますと、大体1,600人ぐらいの受け入れをでき

る施設等が必要になろうかと思えます。その辺を基準にしながら、順次お尋ねをしていきます。

まず、1番目です。旅客船の規模と便数の目標。現在、対馬・釜山間に就航している船舶の旅客定員数は、オーシャンフラワーが443人、コビーが200人、JR九州も200人、単純に合計しますと843人になりますが、JR便は福岡航路の寄港便でございますから、万度にこれを計算するのはいかがかと思えます。およそ780人が対馬に来れる状況、それぞれが1便入港したとしてですね。この配船では、年間30万人の観光客を受け入れるというか、輸送するのは30万人が限度となろうかと思えます。

そこで、港湾施設国際ターミナル、C I Qの体制、基礎数字に必要なことですから、どのようなその配船が一番ベターであるのか。その辺について、どのようなお考えをしておられるのかお聞かせください。

2番目です。港湾の旅客船係留設備についてでございます。厳原、比田勝港とも4,000トン級の船舶の係留施設がありません。既に比田勝港の港湾管理者である長崎県に対しては、対馬振興局にその整備方を要望されているようですが、その対応がどのようなになっているのか。完成予定時期は、あるいは、供用開始時期はいつになるのかお知らせください。厳原港については、3年後の供用に向けて工事ももう既に開始されているようでありますから、回答は結構です。

3番目です。国際ターミナルの整備についてお尋ねします。厳原港、比田勝港ともに国際ターミナルの待合室は、100人ぐらい入りますと目いっぱい状況です。特に、比田勝港の国際ターミナルは、第2次対馬市総合計画が制定された以降の、ことし完成したばかりなんですけども、計画との照合性はどうなっているんでしょうか。全くわかりません。韓国観光客誘致を重点施策に掲げる対馬市としては、余りにも恥ずかしい施設ではないかと思えます。いよいよ本格的な展開が目前にある今、この現状をどのように改善しようとされるのかお知らせください。

4番目に、C I Q体制でございます。観光客を最初にお迎えるC I Q体制について、外国の観光客が対馬に到着して、まず最初に入国審査を受けるわけですが、その審査ブースに至っては、比田勝港が6ブース、厳原港は5ブースでございます。1人当たりの審査時間がおよそ1分半が必要だと言われておりますが、現在は、入国管理官の御努力でおよそ1分弱で対応いただいているようです。いわゆる1時間で60人ぐらいの審査が行われております。上対馬の場合6ブースですから、1時間で360人、単純計算ですよ。400人超えの場合は、およそ1時間強ぐらいの審査時間になってるような現状のようです。しかも、比田勝港の場合は、厳原からの通勤による審査をされているようですから、10時から4時までを基準にされておるようでして、非常に厳しい審査体制がとられておるんです。

そういう中で、非常に最初に対馬に入ってきたお客さんに大変満足できるちゅうか、スムーズな入国体制がとられていないのが現状であると思えます。この辺の対応策についてどのように考

えておられるかお聞かせください。

ちょっと休憩願います。

○議長（堀江 政武君） 休憩します。

午前10時14分休憩

-----

午前10時15分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

○議員（5番 淵上 清君） 市長、そこで、この2項目め、3項目めの係留施設……。ちょっとできんかな。ちょっといいか。ちょっとごめんなさい。（「休憩」と呼ぶ者あり）

○議長（堀江 政武君） 休憩します。

午前10時15分休憩

-----

午前10時39分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） どうも失礼をいたしました。

さきに述べました係留施設、あるいは、ターミナル、C I Qの体制、この3項目のうち、1つでもぐあいが悪くなるというか、停滞しますと、ホテル等が大きな観光客の受け入れができるということで、しっかりとした今、建築が進んでおるんですけども、こちらに泊まる客が増加することは望めないようになってしまうわけでした、大変なことになろうと思います。しかも、市のほうが誘致したホテルのみだけじゃなくて、一般の宿泊業をしとる人たちも、この新しく建ったホテルのほうと競争をしまして、受け入れの客数が今度は減ってくるわけで、だから、しっかりとした受け入れ体制を整えんと大変なことになる、そのことを大変心配しております。しかも、その役割は公的機関が進める役割ですから、この辺についてしっかりとした対応をしなければならぬと思いますんで、この辺について市長のお考えを、3項目について特にお聞かせをいただきたいと思います。

それから、経済効果の拡大策については、6月議会で観光消費額の単価を10%アップというふうなお話をなされましたが、もともと全国区の平均値といいたいまいしょうか、大体の1日あたりの観光客の消費額の、私は8割ぐらいしか対馬では韓国観光客は使っていないというふうに見とるんですが、10%といいたすと、8割が9割になるぐらいの話ですね。まだまだ一般の観光客の数値まで届かんと。これはもう、特になんですけれど、10%とかのけちな話をせんで、二、三十%アップぐらいして、全国平均にたどり着いたそれを上回るぐらいの目標数値を持つべきだという

ふうを考えております。これは特に誰しも考えることですから、目標数値がいやにけちな数字だなということ言ってるわけです。

大きく2番目です。韓国観光客受け入れ対策協議会の拡充について、さきの質問でも触れましたが、観光客の受け入れに係る団体は多岐にわたります。公的機関では、港の整備管理をつかさどるのは、厳原港は国土交通省、比田勝港は長崎県、観光客の入国、持ち込み荷のチェック機関は入国管理事務所、税関、検疫所、ターミナルは対馬市、加えて、警察署も治安のための担当をされます。観光客が島内に入りますと、道路、公衆用トイレ等は、長崎県、対馬市などが公的機関ではまず考えられますが、民間団体では、旅客運送を担当するのは、航路を開設している海運会社、陸上ではバス運行会社、宿泊はホテル・旅館・民宿など、食事はレストラン、食堂等で、ほかには、タクシー業界とか、車のレンタル会社とか、土産物店などが関係してくるわけです。このような公的機関、民間団体とそれぞれが一つになって初めて目標が達成されるわけです。

しかし、年間40万人の目標数値に対する各公的機関、民間団体は、それぞれの対応を個別に考えているようにしか見えません。各セクションの年次計画が全く見当たりません。ホテル誘致も大切な事業ですが、もっと大切なことをないがしろにされたまま、片手落ちの現状を憂慮しておるんです。このようなひとりよがりの行政では全くだめです。しかし、過去を言っても始まりませんから、早速その拡充策を連携する公的機関、民間団体と再構築して、その具体策の策定を急ぐべきだと考えますが、いかがですか。市長が選挙時、声を大にして訴えておられました、関係者とスクラムを組んで邁進しますということの実践になるかと思えます。お考えをお聞かせください。

3番目の韓国観光客の目標数値の見直しについてですが、これはもう時間も余りありませんから、ただ、5年後30万、10年後40万というのは、余りにも目標数値が現状に見合っていないと思います。韓国の釜山事務所では、連日、個人の対馬の情報が欲しいということで連絡があっっておって、その対応に大変追われているようですね。そして、航路の発券窓口では、今まではエージェントがまとめて団体客の切符を購入してた。現在は、個人で切符を買われる方がもう急増しておるんですよ。だから、形態は変わってきましたね。もうどんどんふえる状況にあります。海運業界のある方ともちょっと話したことがあるんですが、60万の時代はすぐそこだとおっしゃってます。片や、受け入れをつかさどる公的機関が30万、40万ということでは、また同じような状況になりかねませんので、しっかりとその辺を、韓国の情勢とか、そういうものもしっかりと調査をして、私は見直すべきと。そうせんと、目標数値があつてこそ、ターミナルの規模とか、あるいは、C I Qの体制とか、岸壁の状況とか、そういうのが観光客誘致数に沿った規模にしなければいけませんから、その計画をしっかり構築した中で着手していかと、今までみたいにターミナルとC I Qの入国審査をするところとは別々だったり、ちぐはぐな受け入れ施設が

またやらんにゃいかんようになると。そういうことやなくて、堂々としたゆとりある受け入れ体制をつくるべきだと思いますんで、そういうことで、ひとつ市長のお考えをお聞かせください。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 渚上議員の質問にお答えいたします。

まず、1点目の、旅客船の規模と便数の目標でございます。第2次総合計画におきましては、平成37年度末における外国人観光客を、平成26年度の実績約19万6,000人の倍であります約40万人と想定をしております。現状では、1日最大で比田勝港に5便、厳原港に2便が入港、8月末まで現在で、既に約17万人が入国しており、昨年と比較しますと、約20%程度の増が推移しております。旅客船の大型化の話も伺っており、観光客数も伸びる傾向にあると思われませんが、今後は、平日や閑散期の乗船率の向上、厳原港の利用促進など、旅行者や航路事業者への働きかけはもちろん、C I Q体制の充実、施設整備など関係機関の連携により、37年度末の目標であります40万人達成に向けて邁進していきたいというふうに考えております。

次に、2点目の、港湾の旅客船の係留施設の件でございますが、比田勝港における4,000トン級の船舶の係留施設の件でございます。御指摘のとおり、6月末に要望が出されました。仮に4,000トン級の船舶が係留する場合には、現在の岸壁に設置されている係船柱では強度が不足するとお聞きしております。その対応につきまして、管理者である県に確認いたしましたところ、9月末までに運航事業者間の調整と安全確認が整えば事業に着手できるということでございますので、今年度末までに供用開始できるよう、県に強く要望をしたいというふうに考えております。

3点目の、国際ターミナルの件です。6月議会での協本議員の一般質問にもお答えしたとおり、当初は、旧国内ターミナルを改修し、オーシャンフラワー450人乗りの1隻に対応する予定でございましたが、平成23年度に新規事業者でありますJR九州さん、未来高速さんが参入され、それに合わせてターミナルを新築することになった次第であります。しかしながら、3社体制になっても、間隔を開けて入港すれば、オーシャンフラワーの定員に応じた数のブースでも十分に対応できるとして計画をした次第でございます。このとき、現在のような過密な入港スケジュールは考えられず、御指摘のような状況となっております。

しかしながら、韓国からの観光客誘致を進める上で看過できない事態でありますので、抜本的な解決のため、ターミナルの増改築計画について検討するよう、担当部のほうに指示をいたしているところでございます。

4点目の、韓国人観光客の増加に伴うC I Q体制の拡充につきましては、C I Qの出先機関との情報共有を初め、島内のC I Q出先機関への人員増員の要望書の提出を行うとともに、各省庁へ人員増員など要望書の提出を進めているところでございます。

C I Qにおきましても、急激に増加する韓国人観光客に対応するため、職員の増員や派遣等により鋭意御対応いただいているところではありますが、予想を超える入国者数に人員及び施設整備が追いついていないのが現状でございます。

かかる現状につきまして、インバウンド施策をすすめる国へ申し入れを行うとともに、施設整備等につきましても、国、県、市と連携して行ってまいりたいというふうに考えております。

次に、5点目の、経済効果対策の拡大策についてでございますが、今後、船の大型化や新しい宿泊施設の開業が予定されており、その波及効果といたしまして、飲食消費の増加やレンタカー・観光バス業者の増加が期待されるところでございます。

また、最近では、厳原、比田勝におきまして、免税店や飲食店などが次々にオープンしております。民間の投資により、観光客が消費する機会が増えていることも事実でございます。

旅行の形態が、先ほど渚上議員からもお話がありましたように、団体から個人にシフトする中、今後は、人数の増加への対応もさることながら、1人当たりの観光消費額の拡大についても、観光物産協会、商工会とも連携を図りながら、10%とアップという目標に少しでも上積みできるような方法を各関係機関と協議する必要があると考えております。

続きまして、大きな2点目の、韓国観光客受け入れ対策協議会の拡充についてでございますが、現在、比田勝港において急増する対馬・釜山航路の利用者に対処するため、比田勝港国際航路受け入れ体制検討協議会を設置したところでございます。

御質問の韓国観光客受け入れ対策につきましては、全島一体となって取り組むことが必要と考えており、市内部においては、既に全島の既存観光施設の洗い出しや、新たな観光資源の掘り起こしを行うなどして、観光客受け入れ対策に向けた準備を進めているところでございます。

今後につきましては、観光客受け入れ体制を強化するためのソフト面と、観光基盤整備等のハード面の両面から、受け入れ環境を整備していくことが必要と考えますので、そのためにも、早期にC I Qを含む行政機関、民間団体等で構成する協議会を新たに立ち上げ、官民一体となって全島的な観光客受け入れの具体策の検討を行ってまいります。

最後に、第2次総合計画における目標数値の見直しについてでございますが、平成37年度に40万人という数値目標を掲げております。船の大型化や新しいホテルの建設など、計画の策定時には想定できなかった事態に、政策が追いついていないとの御指摘だと真摯に受けとめております。人や物の流れ、経済の動向を読み、先手を打つことが、対馬の活性化につながるものと思っております。各施設や取り組みについて実施状況や達成度などを分析し、課題を把握するための評価を毎年行い、必要な改善を反映させ、さらに、急激な時代の変化に応じて、目標値の見直しも含めた検討が必要だと考えております。

以上の答弁でございます。どうかよろしく願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 5番、瀧上清君。

○議員（5番 瀧上 清君） 答弁いただきましたが、総じて非常に前向きな御答弁をいただきました。ただ、一つの目標は、観光客の受け入れをしっかりとやるという目標ですけども、やや具体策に欠けるんだなという面があります。現状は、具体的な方策までは、協議会を立ち上げて、その辺から具体策に入っていくと思うんで、随分立ちおくれしておりますから、これは早急にしなれば大変な状況が来るということです。

観光客便の規模については、私はやっぱり大型化することによって、現在、波高3メートルぐらいでは、もう欠航してるんですよ。それが、話によりますと、5メートルぐらいまでこの4,000トン級の船は入れるそうですから、やっぱり安定した観光客が流れ込んでくるということでは、非常に格安な運賃も想定できますし、しっかりとその辺は取り組むべきだというふうを考えております。

2点目の旅客船の係留施設なんですけど、県のほうも非常に喜ばしいことだということで、調整が済み次第、着手をするということなんですけど、実は、中身は大変厳しいものなんです。いわゆるC I Qの体制とかそういうもので、およそ午前中に観光客入ってきますよね。そうしますと、入ってくる船と船の間隔が短いことによって、C I Qの対応が本当厳しくなると。特に、今度は大型船になりますと、例えば、八百何十人乗りですから、それが満席になってくると大変なことですよ。だから、その辺の調整はどうするのかということですけども、現状では、現状のまま単純計算しますと、2時間以上かかるんですよ。それではだめだとおっしゃってるんですよ。2時間もお客さんを対馬に入ってから島内に入れられない状況では、不満が募って、後々に大きな影響を与えかねないので、その辺の調整をちゃんとしたものを持ってきなさいと。

ところが、C I Qの体制とか、そういうものについては、民間の業界では立ち入ることはできません。そういうところで、今、随分苦労しておられるようなんですよ。したがって、私は、受け入れ対策協議会的なものの中で、その辺の調整とか、そういうものもしっかりと取り組んでやらないと、業者任せでは、これは先行き、きっとできませんよ。

しかも、市長は答弁で、今月末を目指したと言われますけども、着工後、四、五カ月かかるようですよ。それで、コンクリートですから、打設して、すぐオーケーというわけはいかんですよ。しっかりと強度が出るまで。だから、半年かかる模様です。したがって、これ急がんと、ホテルの営業開始に間に合わんですよ。そういう状況と。

もう一つは、船のほうは、韓国サイドは、もう航路の、何といいますか、開設に向けての認可がおりとるそうなんですけども、船が航海しないと取り消しになる模様です。大変なことになりかねないので、その辺の調整について、市長、やっぱり一肌脱いで、いろいろ方策はあると思うんですよ。C I Qの体制についても、現状の前のターミナルというんですか。審査ブースがあっ

たでしょ。ああいうものを活用するとかしながら、いろいろな方策をできると思うんで、そういうところで緩和策をとって、あるいは、それができるまでの間は、何ていいですか、業界とも旅客数の制限を相談したりしながら、いろいろ調整はできると思うんですよ。その辺の調整役を担ってほしいなということなんです。いわゆる振興局あたりと、何ていう、協議にも、調整がうまくスムーズに行かないので、やはりターミナル、C I Q、その体制がしっかり整ってないことによって時間がかかるわけですから、その辺の調整役を担うべきだというふうに思っております。後でお聞かせください。

ターミナルの件については、もう既にいろいろ検討なされておるようですが、これもまた、ゆっくり計画を練ろうということでは間に合いません。しっかりと急ぐ問題ですから。それも、やっぱり思い切ったものをつくるべきだと思うんです。資金的な面もあるでしょうけども、ターミナル使用料の改定とか、そういうものでいろいろ対応策はあると思うんで、しっかりと対応してほしいと思います。

C I Qについては要望書も準備されるようですが、要望だけではだめですよ。ブースをいついつごろまでに、ブースをどれだけのものを整備しますから、それに対応できる体制をお願いせんと、ブースの計画なくて人員の増強だけをお願いしても、話は先に進みません。

報道によりますと、国のほうも、日本に外国の観光客、今どんどんふえてますんで、入国審査官の増強を指示したということは報道されております。ひとつおくれをとらんように、しっかりやってください。

対策協議会も急いで立ち上げて、急いで目標数値、あるいは、設備の拡充、そういうものについて協議を進めてほしいと思います。

特に気になってるのは、係留環なんですけどね。係留施設。その辺について、市長がもう少し一肌脱いでせんとか解決せんと思いますんで、その辺についてお聞かせください。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、そのプレハブ施設の活用の件でございますけども、この比田勝港にありますプレハブの旧施設につきましては、この予備費で対応するように、もう指示を今してるところでございます。今現在、そのブースをふやす方向でいくのか、それとも、今現在、待機をしてある方たちがかなり困っていらっしゃるという話も伺っておりますので、そこら辺、最適な方法はどちらかということ再度また検討してまいりたいというふうに考えております。

それから、先ほどの船の三者の協議の件でございますが、今度、新しいその4,000トン級の船につきましては、比田勝港のほうに工事の期間も含めて、ちょっと入港が難しいというときは、できれば巖原港のほうを利用していただければどうかなというふうに私自身も考えているところでございますが、そこら辺は、また協議をさせていただければなというふうに思っております。



す。

それと、比田勝港の新ターミナルのその増築の件でございますけども、これも現在6ブースを、できれば10ブースに確保できるように、もう早く来年からでも着工できるように準備を進めてまいりたいというふうに、今、担当課のほうにもどういう方策があるのか、そこら辺を含めて指示をしているところでございます。

それから、C I Qの調整の件でございますが、C I Qのほうにも、今、淵上議員さんが話がありましたように、このインバウンド政策の件もありまして、まず、市のほうが準備をしないことには、C I Qにお願いしても、ちょっとC I Qとしても難しいという面もあろうかと思えます。そういうことで、先ほども申しましたように、できれば早い内にこのブースの数をふやして、C I Qのほうにもまた直接出向いてお願いをしたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） およそ私が想定した以上のその辺の状況を先取りして、しっかりと対応してあるなという感じがします。

しかし、C I Qの体制についても、あるいは、係留施設についても、ターミナルについても、これがしっかりと対応できるまでには、工事を必要としたりすることなんですから、時間を要するんです。だから、いかに早くその着手ができるかというのが、このホテルができるまでの、ホテルが営業を開始するまでにその辺が整備できるかちゅうのは、もう時間の問題なんですよ。勝負ですね、時間の。だから、これは早急に官民一体になって、やっぱり対馬市の観光行政ですから、市長が中心になって先導して、そして、それぞれの機関とも連絡調整して緊急的にやっていかんと、大変なことになるというふうに私は見てるんですよ。だから、時間もありませんから、しっかりと取り組んでください。ほかに対馬の活性化策いろいろあるようですけども、これほど先が見えた活性化策はないと思うんですよ。今これをやりしくじると大変なことになりますから、今が急増していくのか、あるいは、横ばいになるのかの瀬戸際と思うんです。しっかりと取り組んでやっていかなきゃいかんと思えますが。

もう一度聞きます。係留環の件ですけど、振興局との協議、あるいは、C I Q体制を含めた、そういうものについての早期着手に向けての、何ていうんですか、調整役を、市長、担っていただけかなというふうに思うんですが、いかがですか。そのことについてだけでいいです。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 調整役ということでございますけども、この調整役、事業者間の調整役ということで、行政といたしまして、どこまで入り込めて調整ができるのかなということは今私自身も思っているところでございますが、できる範囲では努力をしたいというふうに思います。

○議員（5番 淵上 清君） 最後です。

○議長（堀江 政武君） 5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） 業者の調整を言ってるんじゃないです。振興局との早期着手に向けた調整ですよ。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 振興局のほうとは、前日も申しましたように、毎月1回ミーティング、プロジェクト会議をしております、その調整を私のほうもやろうと思っております。実は、昨日も振興局長のほうにもいろいろとお願い等もしているような状況でございます。

○議員（5番 淵上 清君） 重要な政策ですから、しっかりと頑張ってもらいたいし、議会サイドもできるだけスクラム組んだ中での対応もしていきたいなと思います。どうもありがとうございました。

最後に済みません。きょうは、ちょっとぶしつけな姿を見せました。皆さんにお断りします。元気ですから御安心ください。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで、淵上清君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩いたします。再開は11時30分からとします。

午前11時16分休憩

午前11時30分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

11番、上野洋次郎君。

○議員（11番 上野洋次郎君） 皆さん、おはようございます。会派、新政会の上野洋次郎でございます。本定例会では、新政会より5名の質問者がありますが、私が最後の質問者です。よろしく願いいたします。

まず、質問に入る前に、昨日、対馬市においても、地震で震度2、そして、震度3という地震があつております。震源地は韓国のほうでしたけれども、マグニチュード5.7ですかね。そういう中で、議長の許しがあれば、きのうの地震で対馬市において災害があつたのか、なかつたのか、もうそれだけで結構ですので、市長、報告できればよろしく願いいたします。

今定例会の市政一般質問について、4項目通告しておりますので、順に市長の見解を求めてまいります。

まず、1項目めの副市長定数条例の適用についてでございます。

比田勝市政が船出し、やがて半年になろうとしております。5月からは、行政経験豊富な前総